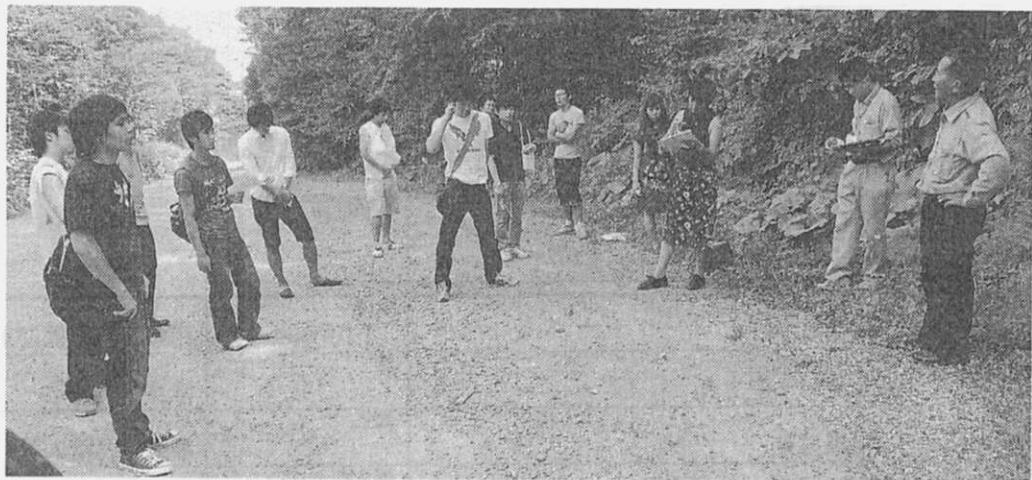


2007.8.5

盛岡タイムス



佐久間康徳自治会長から村道拡張事業についての説明を聞く学生ら

明治大学農学部の学生が1日から滝沢村、零石町を訪れ、各地区の地域づくりの取り組みを学んでいる。両町を訪れているのは農学部農業経済学部の市田知子准教授の研究室で地域計画論を学ぶ3年生11人。

2日は、姥屋敷地区で住民自らが拡張した村道鬼越洞畠線の現場を見学した。学生は姥屋敷地区の佐久間康徳自治会長から村道拡張に至る経緯を聞くとともに、住民の協働の結晶ともいえる取り組みに理解を深めた。

戦後、満州（現在の中国東北地方）から引き揚げてきた人たちが開拓者として多く入った姥屋敷地区。生活路として使ってきた村道の拡張にかける住民の思いは強く、役場では予算的に厳しかった工事を地域が結束して自らの手で成し遂げた。道路沿線の地権者との用地交渉、機械を使つた作業、完成した喜びなどの話に耳を傾けた。

井口彰大さんは「地域で取り組んでいることは違つが、住民が率

ていい居民の声を聞けて良かった」と話す。同研究室では農村を中心に行き、街づくりに取り組んでいる地域を授業で取り上げている。「最近は、住民がアイデアを出しやつている取り組みが増え、そういうところに同つて研究している」と話す市田准教授。今回、前職の農水省時代に知り合つた農家がいることから滝沢村を研修地に選んだ。

市田准教授は「村 자체が地区単位で自治会を中心に地域ビジョン

明治大学の学生が滝沢村へ

地域づくりを現場で学ぶ

うと頑張っている。そういう住民の声を聞けて良かつた」と話す。同研究室では農村を中心に行き、街づくりに取り組んでいる地域を授業で取り上げている。「最近は、住民がアイデアを出しやつている取り組みが増え、そういうところに同つて研究している」と話す市田准教授。今回、前職の農水省時代に知り合つた農家がいることから滝沢村を中心に行き、街づくりに取り組んでいく場で型をはめるのではなく、地域が自主的に動く様子を見てもらいたい」と住民協働が進む同村での取り組みについて話した。

をつくつ取り組みをしている。学生には役場で型をはめるのではなく、地域が自主的に動く様子を見てもらいたい」と住民協働が進む同村での取り組みについて話した。